

成 果 報 告 書

【団体名】

間伐で里山を元気にする「木の駅八千代」

【団体紹介】

平成26年に広島市安佐南区・安佐北区で発生した広島土砂災害。多くの尊い人命が失われました。許容量を超える大雨は、いつどこで発生するか分かりません。近年の土砂災害を見ると多くの立木が流れ出し救助を阻んでいる映像が映し出されます。植林した山は、間伐されず昼間でも暗い状態で、低木や下草も育たず、保水力の低い山になっています。

私たちは、災害が発生する度に、里山を整備し植生豊かな保水力の高い里山を復活させることが必要だと強く思うようになりました。そこで、全国で取り組んでいる「木の駅」を当市でも実施したいと思い活動を始めました。

【活動状況・実績】

登録メンバーは現在16名で40代～70代、地元住民は7名、それ以外の10名は広島市内から参加しています。活動内容は毎週土曜日から月曜日の3日間を活動予定日とし、ラインを使って参加希望者を確認し3名以上集まれば、杉・桧を植林した山で間伐・枝払いを行い、1.8m材として地元の製材所に出荷しています。また、広葉樹を伐採し、30cmの薪ストーブ材・ほだ木として地域住民に販売しています。これらの売上げを現金でメンバーに配分するのではなく、地元の飲食店やガソリンスタンドでのみ使える地域通貨（たかたん券）として発行し、地元店舗の売り上げにも貢献しています。

【実施効果】

地域住民は里山の現状を知りません。私たち「木の駅八千代」が活動することで、地域住民が再び里山に入る習慣を取り戻すことで、荒れた里山の現状を理解し、想定を超える大雨になったら危険なので避難するという考えを理解し行動に移してもらいたいと願っています。

【展望】

里山の整備を続けることで、地域住民もこの活動に加わり、オール八千代での取り組みになることを願います。そして、安芸高田市八千代町の森林資源及び町内外の人的資源を活用して山に入る仕組みを根付かせ、里山再生・災害防止・鳥獣被害防止・地域コミュニティ活性化・環境学習の推進を一步ずつ確実に進めて参ります。

